

消防だより

Vol.6

令和4年8月

編集・発行/木更津市消防署 本署警防隊

担当 伊藤・中原・山田

〒292-0834 木更津市潮見2-1

TEL 0438-22-0119 FAX 0438-22-0151

E-mail sho-shoubo@city.kisarazu.lg.jp

消防車両紹介

化学消防自動車



化学小隊が乗車する化学車には水、泡消火剤およびそれらを使って消火活動するのに必要な資機材が積載され、車両上部には放水銃を装備し、水では消火不能や困難な油火災に対し水と薬液を混合させた混合液を放水し対応します。化学小隊はそうした特殊な状況での火災に対応する部隊で、石油コンビナート火災、車両火災、航空機事故等ガソリンなどの危険物火災の最前線で活動します。

また、活動場所は通常の火災現場よりも高温になりやすいため、隊員も高温にも耐えられる耐熱服を着装し活動します。

暑熱順化

暑熱順化とは、体が熱さに慣れることです。暑い日が続くと、体は次第に暑さに慣れて、暑さに強くなります。

気温が上がリ、熱中症の危険性が高まる前に、無理のない程度に汗をかくことが大切ですが、数日暑さから遠ざかると効果が薄れてしまうと言われているので、毎日適度に汗をかく運動や入浴を心掛け、汗をかいた後は、必ず水分と適度な塩分を摂りましょう。



～消防団員募集～

市民の安心・安全を確保するためには、地域の皆さんの力が必要です。地域の安心・安全の守り手として、木更津市に在住、在勤または在学する18歳以上で、健康な方の入団を心よりお待ちしております。入団希望・ご相談は消防本部警防課(0438-23-9184)まで。

集中豪雨や台風への備えは

できていますか？



集中豪雨は、大気の状態が不安定になり、積乱雲が発達して局地的な激しい雨を降らせる現象を言います。近年では、降雨量が多く低い場所ではあっという間に冠水してしまいます。また、近年の台風では、甚大な被害も発生していますので注意が必要です。

事前対策として

※土嚢の準備

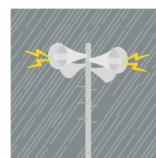
※風で飛ばされるような物は室内に収納し、物置やカーポート等はできる限り固定する。

※窓は鍵をかけてカーテンを閉め、網戸も外れないか確認しておく。

※ハザードマップを活用して、洪水や土砂災害の危険性がある場所を確認し、避難場所を決めておく。

※停電や断水に備え、照明器具や飲料水、食料品を確保し、衣類等を入れた避難用バッグを準備しておく。

※防災行政無線や安心安全メールの情報に注意し、早めの避難を心掛けましょう。



熱中症に注意！

気象庁は6月27に関東の梅雨明けを発表しました。これは平年より22日早く、1951年の統計開始以来1番早い梅雨明けです。梅雨明け後は、本格的な気温の上昇に伴って熱中症に罹るリスクが高まります。右に熱中症の症状と、その対処法を掲載しました。

年齢を重ねると、暑さや喉の渇きを感じづらくなるため、熱中症に罹患しやすくなります。喉が渇いたと感じる前にこまめに水分補給をしましょう。また、炎天下での屋外活動は控えてください。エアコンの風が苦手な方も中にはいらっしゃるかもしれませんが、適度な使用は熱中症を防ぐ上で大変効果的なので、ぜひ有効活用してください。熱中症は日中だけではなく夜間にも発症します。無理はせずに体調管理には十分注意して夏を乗り切りましょう！

チェック1

熱中症を疑う症状がありますか？

(めまい・失神・筋肉痛・筋肉の硬直・大量の発汗・頭痛・不快感・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感・意識障害・けいれん・手足の運動障害・高体温)

はい

チェック2

呼びかけに応えますか？

はい

涼しい場所へ避難し、服をゆるめ体を冷やす

チェック3

水分を自力で摂取できますか？

はい

水分・塩分を補給する

大量に汗をかいている場合は、塩分の入ったスポーツドリンクや経口補水液、食塩水がよいでしょう

チェック4

症状がよくなりましたか？

はい

そのまま安静にして十分に休息をとり、回復したら帰宅しましょう

いいえ

救急車を呼ぶ

救急車が到着するまでの間に応急処置を始めましょう。呼びかけへの反応が悪い場合は無理に水を飲ませてはいけません

涼しい場所へ避難し、服をゆるめ体を冷やす

氷のう等があれば、首、わきの下、太もものつけ根を集中的に冷やしましょう※

医療機関へ

本人が倒れたときの状況を知っている人が付き添って、発症時の状態を伝えましょう

※スポーツや激しい作業・労働等によって起きる労作性熱中症の場合は、全身を冷たい水に浸す等の冷却法も有効です。

出典：厚生労働省ホームページ「熱中症予防のための情報・資料サイト」より引用

救急車の適正利用をお願いします。

救急車の数には限りがあります。生命の危機に瀕して救急車を本当に必要としている人のために、不要な救急要請はご遠慮ください。

現在、木更津市では6台（夜間は5台）の救急車が運用されています。潮見の本署に2台（夜間は1台）、金田地区、波岡地区、富来田地区、清川地区にそれぞれ1台ずつ配備されています。119番通報すると、要請地点の一番近くの消防署から救急車が出動する仕組みになっており、例えば要請地点が潮見であれば、本署から出動した救急車が迅速に現場に到着することができます。しかし、本署の救急隊が出動してしまっていた場合は他の地区から出動することとなり、傷病者が重症だった場合それだけ時間が余計に掛かることで、生命の危険が高まることとなります。また、木更津市の救急車が全て出動してしまうと近隣の君津市や袖ヶ浦市から救急車が出動することとなり、現場への到着は大幅に遅れます。

昨年度、木更津市では救急要請の53.5%が軽症者によるものです。

救急車は無料だから、夜間休日で病院が診察していないから、交通手段がないからといった理由で不要な救急要請を行う人が増えています。それだけ市民の方にとって消防を身近に感じていただけるようになったのかもしれませんが、不要な救急出動が増えれば、本当に救急車を必要としている人の元に迅速に救急車が向かう事が出来ません。無闇に不要な救急要請を行うことが、苦しんでいる誰かの命を奪うことに繋がるかもしれません。逆に不要な救急要請を行わないことが間接的に本当に救急車を必要としている人の命を救うことになるのではないのでしょうか。

このような時はすぐに119番へ！

- ・突然、片方の腕や足に力が入らなくなる
- ・突然の激しい頭痛 ・ろれつがまわらない
- ・胸が締め付けられるような痛みが続く
- ・突然の胸の激痛 ・顔が青白い、冷や汗
- ・急な息切れ、呼吸困難